

SHUNKEN 2011-07 39-02

駿建

2011年夏期号 Vol.39 No.2 日本大学理工学部建築学科 日本大学短期大学部建設学科

東日本大震災報告

未曾有の大災害となった東日本大震災の発生から早くも4ヶ月が過ぎた。未だに多くの被災者が避難生活を続けており、福島第一原子力発電所の事故も終息していない。そんな3.11の出来事について、専門家や学生といったそれぞれの立場から報告を行う。

東北地方太平洋沖地震による 駿河台校舎の地震観測記録と被害

秦 一平

東北地方太平洋沖地震はマグニチュード9.0という、わが国における観測史上最大の地震動を記録し、東北地方から関東地方の広い地域に激甚災害をもたらした。

ここでは今回の地震の特徴を示し、駿河台校舎で観測された地震記録と建物の被害について報告する。

●東北地方太平洋沖地震について

今回の地震の特徴は、図1に示すように、14時46分に発生した本震のあと、マグニチュード7を上回る余震が5回も発生している。図1の枠で囲まれた余震の分布は、南北500km、東西200kmの広範囲にわたっている。とくに、三陸沖の震源で最初のイベントが起きてから福島沖、茨城沖へと続く破壊の連鎖が、非常に継続時間の長い地震動を引き起こした。また、大きな津波が発生し

たことが最大の特徴である。東京でも震度5強を観測し、周期成分が長い長周期地震動が観測され、新宿副都心の超高層ビルが長い時間揺れていたことが報告されている。

●駿河台校舎の地震観測記録と被害

今回の地震による駿河台校舎で観測された加速度データ(NS方向)を図2に示す。図2の加速度データより、最大加速度は、南北方向で113(cm/s²)、東西方向で95(cm/s²)を記録し、計測震度で4.7であった。また、地震の継続時間を見ても、主要動が5分近く揺れていることがわかる。

次に、観測された加速度データから、粘性減衰定数5%の加速度応答スペクトルを図3に示す。図3の応答スペクトルは、横軸が固有周期を、縦軸には擬似速度を示している。簡単にいえば、横軸は建物の高さを示しており、右にいくほど高い建物であり、縦軸は地震の揺れの大きさを示していると考えてほしい。その結果より、建物が高いほど大きく揺れることがわかる。

以上のような地震観測結果から、駿河台校舎の被害は、比較的高層な9号館が大きく揺れ、6号館(図書館の建物)との連絡通路が大きな被害を受けている(写真1)。また、その他の被害は、1号館での吊り天井の傾斜、7号館の施工継ぎ目部の剥離などの軽微な被害がほとんどであった。

(はたいつぺい・助教)

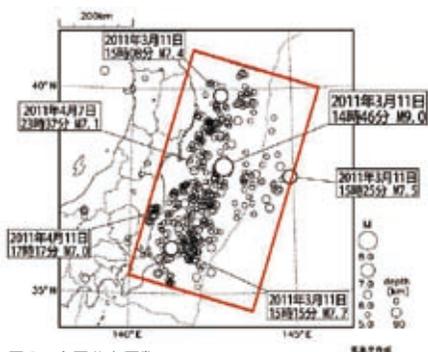


図1 余震分布図[※]
地震名称：2011年東北地方太平洋沖地震
発生時刻：平成23年3月11日(金)14時46分
震源：北緯38.0°、東経142.9°(三陸沖)
震源深さ：約24km
規模：マグニチュード9.0
※引用：http://www.jma.go.jp/jma/menu/yoshin_area.pdf

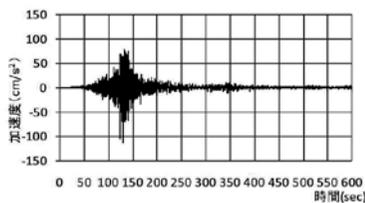


図2 1号館で観測された地震動



写真1
9号館と6号館の連絡通路の被害写真

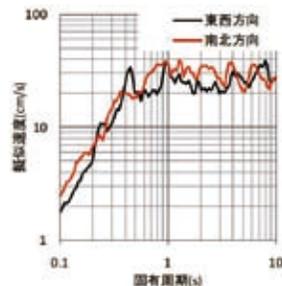


図3 粘性減衰定数5%の
加速度応答スペクトル

首都圏における建物被害状況

田嶋和樹

3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震は、東北・関東一円に甚大な被害をもたらした。日本建築学会・関東支部では、地震災害調査連絡会が組織されており、3月16日(水)には関東支部地震災害調査WGが設立された。これに伴い、3月17日(木)より関東支部に属する1都7県において初動調査がスタートした。この初動調査は、被害状況の全容を把握することが目的であり、地震発生から2週間程度の間に行われるものである。筆者は、今回この初動調査に参加し、千代田区全域ならびに茨城県南部の被害調査を行ったので、その概要を報告する。

●千代田区の被害調査(写真2)

3月19日(土)および20日(日)の2日間に渡って、千代田区全域の被害調査を行った。調査にあたっては、文京区役所のレンタサイクルを利用し、研究室の学生4名(19日:伊東大地, 西尾淳, 20日:河合慎太郎, 橋本拓)とともに、千代田区内の建物の被害状況を確認した。建物に見られる被害は軽微なものが多く、主に外壁タイルの剥落や割れ、屋根瓦の落下、軽微なひび割れの発生などであった。日比谷公会堂周辺では地盤が大きく沈下しており、それに伴って日比谷公会堂でも被害が見られた。

●茨城県南部の被害調査(写真3)

3月29日(火)および30日(水)の2日間に渡って、茨城県南部にある4つの市(かすみがうら市, 石岡市, つくばみらい市, 龍ヶ崎市)の被害調査を行った。調査にあたっては自家用車を利用し、研究室の学生2名(堀川真之, 小林仁)とともに市役所へのヒアリングと各市の被害状況の調査を実施した。茨城県南部では、屋根瓦が落下した住宅が多く、応急処置としてブルーシートで屋根を覆った住宅が多数見られた。その他、外壁や天井が落下した被害も確認された。また、霞ヶ浦周辺や河川沿いの地域では、液状化に伴う建物被害が多数見られており、建物に大きな被害を引き起こした事例も確認した。

なお、筆者は茨城県内で免震構造の集合住宅に居住しているが、地震の際に家の中の物がまったく落ちることがなかったという話を家族から聞いている。兵庫県南部地震以降、建物の耐震補強や免・制振構造の普及が進んだが、その効果が今回の地震で検証されている。今後予定されている詳細な調査では、それらを明らかにしていきたいと考えている。(たじまかずき・助教)

首都圏における液状化被害状況

山田雅一

今回の地震で、首都圏においては東京湾東部沿岸と利根川沿岸で広域的な液状化による被害が発生している。外力として作用する地震動は継続時間が長く、揺れの回数が多いのが特徴である。

ここでは、3月に行った初動調査に基づいて、東京湾東部沿岸と利根川下流沿岸の液状化被害状況の概要について述べることにする。調査範囲は、千葉県浦安市から富津市までの東京湾東部沿岸と、利根川下流域では千葉県我孫子市から香取市小見川までの利根川右岸側と茨城県潮来市と稲敷市の利根川左岸側である。

●液状化現象とは

液状化は地下水で飽和した砂地盤で発生する。砂を入れた箱を振動すると乾燥砂の場合、密に詰まって表面が沈下する。飽和砂の場合、振動により砂が密に詰まろうとして間隙水を圧縮するため間隙水圧は上昇する。地震動のように短時間の振動を受けると、砂地盤内部で間隙水圧が上昇し、間隙水が排水できなくなる。そうすると間隙水圧は上昇しつづけ、やがて上部の砂の重量より間隙水圧が大きくなり、砂の粒子間のかみ合わせがはずれる。そのため砂粒子が水に浮いた泥水状態となり、砂のせん断抵抗が完全に失われる。これを砂地盤の液状化現象という。砂地盤の支持力の喪失により地盤上の重い構造物は沈下し大きな傾斜が生じ、見かけの比重が軽い地中の埋設構造物は浮き上がる。また、高い間隙水圧により、



駅改札入口の屋根のずれ



RC造柱のタイルの剥落



ブルーシートで補強した屋根



外壁と天井が落下した遊戯施設



外壁の落下



日比谷公会堂の外装材の破壊
写真2 千代田区の被害の様子



直下で液状化が生じた住宅



液状化で沈下した集合住宅内倉庫
写真3 茨城県南部の被害の様子

地表付近の土粒子の結合力の弱いところで砂と間隙水の噴出（噴砂）が生じる。

●液状化の特徴

本調査による首都圏における液状化の特徴をまとめると以下の通りである。

- (1) 東京湾東部沿岸と利根川沿岸において広域的に液状化が発生した。
- (2) 液状化発生地点の地形・地盤は、東京湾東部沿岸では海岸埋立地、利根川沿岸では旧河道上の埋立地や旧湖沼の干拓地において液状化が確認された。
- (3) 1987年千葉県東方沖地震（マグニチュード6.7）で液状化が発生した一部地域では今回も液状化が発生し、再液状化現象が確認された。
- (4) 過去の地震の液状化被害と同様に、埋め戻し土の液状化によるマンホールなどの浮き上がり被害が各地で見られた。

●東京湾東部沿岸の被害状況

東京湾東部沿岸一帯で液状化が発生した。これらの液状化発生地点は海岸埋立地である。浦安市海榮、美浜、入船と千葉市美浜区高浜、新港では千葉県東方沖地震でも液状化の発生が確認されており、これらの地点では再液状化現象が生じた。市原市、袖ヶ浦市、木更津市、富津市においては液状化が確認できていない。

海岸埋立地における液状化による被害は大きく、噴砂の堆積、電柱の傾斜、マンホールの浮き上がり、道路・歩道の波打ちなどが見られた。住宅地においては、家屋の沈下・傾斜や浄化槽の浮き上がりが見られた。局所的ではあるが側方流動による護岸の崩壊も見られた。

●利根川下流沿岸の被害状況

この地域は、利根川沿岸低地と左岸北方に位置する霞ヶ浦と北浦の湖岸低地から成っている。この地域の液状化による被害は、旧河道上の埋立地に集中していた。一部地域では千葉県東方沖地震でも液状化が発生したが、今回の地震による液状化被害の程度は激しく、我孫子市か

ら香取市小見川まで断続的に液状化被害が認められた。

（やまだまさいち・准教授）

学生としてボランティアに行ってみて

島矢愛子

2日の夜に東京を出発し、5月3・4日と被災地をみて、ボランティアをしてきた。地震が起きてからwiki 3.11でまず行動を起こし、日建設計での復興プレストへ参加して東北学生の話聞いた。その話を聞く限り、建築にかかわるものとして、被災地に対して提案を行う際には現地へ赴き、自分の目に被災地の現状を焼き付けた経験が重要であることが示された。そのような中で、行きたい思いがさらに強くなり、既に現地入りしたことのある学外の友人から誘いを受けて、行くことにした。

行程は、3日は陸前高田・気仙沼を見て回り、4日は石巻でボランティア。持っていった用具は上下レインコート・長靴・ゴム引き軍手・防塵マスク・防塵ゴーグル・頭を守るタオル。現地での行動食としてランチパックなど日持ちするものを持参し、宿は石巻から2時間ほどの鳴子温泉をとる。保険は現地でのボランティアを紹介していただいた松村さん紹介のものに入った。

3日：陸前高田・気仙沼はテレビの平面上よりも圧倒的なスケールだった。例えるなら、御茶ノ水駅から坂を下りおわっても、まだまだ瓦礫が続く世界。人手では間に合わず、重機で作業をしていくしかない。激しい無力感に襲われる。

4日：朝7時に宿を出発して1時間遅れたものの10時には石巻に着く。西光寺という沿岸部にあるお寺で、本堂裏に回りこんだヘドロをかき出す作業。このお寺は2ヵ月近く経って、手前まで押し流されてきた住宅がどかされたので作業できる段階に入ったとのこと。ヘドロは普通の土の3倍の重さと腐卵臭を放っていたが、大人15人4時間ほどで片付けた。松村さんから翌日5日は毎年恒例子ども向けイベントを行うと話を聞いた。

私は泥かきという単純作業をただけでも“自分も何かできる”という希望を見いだした。しかしながら、ボランティアという行為はあくまで私の中の正解であることは留意したい。私は7月下旬にまたボランティアへ行くが、それができなくとも東京にいる私たちは、募金でも物資を送ることで今後を考えることもできる。今、自分の気持ちと能力でできることを信じてすればいいのだ。（しまやあいこ・大川研 M1）

石巻で見かけた大きな看板と鯉のぼり



約1m沈下した住宅（我孫子市）



沈下・傾斜した住宅（浦安市）



浄化槽の浮き上がり（船橋市）



円形型の噴砂孔（香取郡神崎町）

IRONHOUSE

2011年日本建築学会賞(作品)受賞



南外観 雨に濡れると煙突や窓や設備などが付加された立面はより魅力的になる(撮影:椎名英三)



北外観 巻貝が作り出すようなスリットが出入口、床目地とともに人を誘うかのような

学生時代 そして IRONHOUSE へ

椎名英三

「空間の冒険」という魅惑的な言葉が心に浮かび、その言葉の響きに僕の心が高まって、その言葉が心の内に漂流し始め、ついにはその奥深くに漂着して、建築を考へるときに常にその言葉が浮上するようになったのは、いつごろのことだったろうか……。

中学3年の時に、テレビの深夜劇場という番組で、ゲリー・クーパー主演の『摩天楼』という旧作のアメリカ映画を見たのだが、それが建築との初めての出会いだった。フランク・ロイド・ライトをモデルにしたハワード・ロークという名の主人公の建築家が、少年の僕にはあまりにもまぶしくてかっこよかった。そしてそこに出てくる建築にも心がときめいてしまったのだ。僕が建築に恋をした初めだった。

家庭の事情もあり、僕は人間関係が作り出す世界である「社会」に違和感を抱いていて、小学生の頃はクラスで一番無口で消極的でおとなしく、自分の意見をもたない目立たない子供だった。僕は社会への反発から、人間関係とは無縁の次元で展開する「宇宙」に惹かれていった。大学生になって僕は、社会的な地位や制度や関係の中に自身を位置づけるような人々を「社会の中の僕等」と名付けた。それに対して「社会の中の僕等」であると同時に、大いなる宇宙自然の広がりの中に自身の生を帰属させたいと思っている人々を「宇宙の中の僕等」と呼ぶようにした。子供の僕は当然「宇宙の中の僕等」であつたし、宇宙へあこがれて、天文学者になるのが夢だった。「摩天楼」と出会う前は、そうだったのだ。「摩天楼」との出会いは強烈で、僕に建築家への道を指し示してくれた。そして僕には建築があるということで、少しの自信をもつことができるようになった。

高校3年の時、陽光に照らされた緑が、きらきらと光り輝いている姿を見たとき、それがあまりにも美しかったので僕は心底感動してしまった。それは電撃的な啓示だった。実にこの時こそ、僕が美と初めて対面したときだったのだ。美しさの何と素晴らしいことか!

日大に入学し、大学1年の時に読んだ本、ロマン・ロ

ランの『ジャン・クリストフ』は、ベートーベンをモデルにした小説だが、ひ弱だった僕に進軍ラッパを吹いて、進め!進め!と励ましてくれた。この本からは圧倒的な影響を受け、僕はクリストフのようになりたいとひそかに願った。僕は、生を素晴らしく生きなければならぬ!後に『フランク・ロイド・ライト 建築家への手紙』を読んだとき、ライトがサリバンにこの本を送ったということを知り、すごく嬉しくなってしまった。音楽が苦手な僕が、ベートーベンの音楽の力強さと素晴らしさを感じるようになったのもこの本のおかげだ。ベートーベンの音楽は、初めて聞いたのが「田園」だったのだが、その瞬間にすべてを感じた。これは本物の音楽だ!

2年になり駿河台校舎に来て、先生から初めて「建築」という言葉を聞いたときには、それがデザインの授業ではなかったにもかかわらず、心震えてしまったのを覚えている。2年の夏休みの課題にはライト研究というテーマを選んだ。そして初めて訪れた帝国ホテルは、あまりにも感動的だった。エントランスの回転ドアを通り抜けた瞬間から、僕は全身鳥肌が立ち、異次元の世界に足を踏み入れたかのような体験をすることになった。すべてがそこに存在していることが当然であるかのように見えながらも、すべてが特異であった。空間の中を歩くと、次の空間が暗示され、次から次へと空間はめくるめくように展開し、しかもそのどこにいても落ち着きがあり、かつワクワクするような空間体験なのだ。これが有機的建築の流動的空間なのだ。これは今で言う「ヤバイ」という感じだ。ライトの弟子であった芸大の天野太郎先生を訪ねたり、研究室から借りた大判の『ライトの遺言』をアンダーラインで埋め尽くしたりしたのもその頃であった。その本の中に引用された2500年ほど前の老子の言葉「建築の本質は屋根や壁にあるのではなく、それらによって囲まれた内部の空間にある」は、不滅の言葉のように感じられた。建築の本質は空間であり、老子は空間すなわち虚に本質があると言っているのだ。

2年の時の設計製図の課題は、点数も悪く信じられないほど最悪であった。何で自分は自分がつくりたくもないような醜悪な設計をしてしまうのか力の無さを痛感し

た。だから、2年の最後の課題でようやく教室保存になったときは本当にうれしかった。課題には設計趣旨が要求されるのだが、僕は設計初心というタイトルを付け、老子の言葉をそこに引用した。

3年になると僕は、属していた建築デザイン研究会の活動に積極的に参加し、ディスカッションをしたり、合宿をしたり、学祭にプロジェクトを展示したりしながら、設計製図の課題にも全力を集中していた。泊まり込みで先輩の卒計の手伝いもした。設計製図に関しては、この建築の本質は何だとか言いながら、なかなか手を動かさない生徒になっていた。提出1週間前にもそんなことをつぶやいていて、ようやく3~4日前から焦りとともに図面を描きまくって、数日間続いた徹夜明けのゆらゆらした心地よさの中で課題の提出をしたりしていた。早稲田の建築に入った友人の課題をやらせてもらって、提出までしてきたこともあった。点数はAであった。あるとき、建築のことをそれほど好きではないと思われる同級生から、建築のことばかりやっているのは良くない、おまえは「井の中の蛙大海を知らず」だと批判されたりもした。後になって、朝日新聞の天声人語欄に、その句には「されど天の高さを知る」という後半があるということが書いてあり、勇気づけられた。世界というものは、いかに解釈するかによって全然違うのだ。

4年になると、すべての時間は卒業設計のために捧げられた。都市への興味を覚えて、タイトルは「ATTACK TOKYO」とした。しかし、都市を考えれば考えるほど難しく、形にすることの限界をものすごく感じ、その年の10月ごろにアタックできずに撤退してしまった。卒業設計の提出までの残り時間はあまりにも少なく、焦燥と不安の中で、複合機能建築のあり方を提案する「未来博物館計画」というタイトルに変更し、格闘の日々の後に辛うじて提出することができた。その後、友人たちとスキーをしに志賀高原の日大の山荘へ行っていたときに電話があって、桜建賞を受賞したことを知った。それは本当に嬉しい出来事だった。

僕は就職に失敗し、小林文治研究室の研究生となり、その後大高建築設計事務所のアルバイトで大阪万博の基

幹施設設計部に派遣された。次の年に正式に採用されたのだが、所長のデザインをかって悪いと言ったために入社2ヵ月後に首になり、途方に暮れていたときに宮脇さんに拾われて宮脇檀建築研究室に7年間お世話になり、30歳で独立をすることになった。

そしてそうして、さまざまな建築の設計をしつつ、時を重ねることができた。

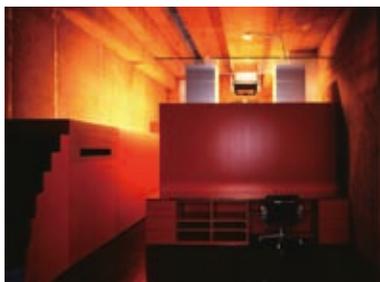
数年前に梅沢さんからIRONHOUSEを設計するチャンスを得たのだが、IRONHOUSEは建主であり構造家であり共同設計者でもある梅沢さんの夢を現実化すべく建てられた超長期住宅であり、地上をコールテン鋼で作り、地下をコンクリートでつくるという混構造建築だ。僕は、どんな素材を使ったとしても、建築は物質を超えて最終的には空間の次元にまで高まらないといけないうように思っている。建築は結果として、物質の集合として現出するという宿命をもっているが、その物質のあり方が、空間という建築の本質を顕現させるまでに高まることができるかどうかの問題なのだ。IRONHOUSEにおいても、物質と物質がどのように関係しながら素晴らしい空間をつくってゆくことができるのか、僕が常に問題としている「自然の感覚」というデザインの根源的な原則、そこにそれがあって然るべき感覚にのっとって建築を創ることを目指した。そしてこの建築を律するものとして、アウタールームを建築のコアに据えた。アウタールームは、天井高137億光年を有する屋外の部屋であり、単なる庭ではなく建築なのだ。このアウタールームを巡って地階から2階まで3層に渡る各部屋は、採光・通風・換気・眺望を得ており、地階では屋内外が一体空間となり、大きなテーブルやベンチを備えることで、食事や読書・語らい・午睡など屋内でできるほとんどすべてのことが日常的に可能な場となっている。

今回学会賞を受賞するにあたり、このようなチャンスを与えてくださった梅沢さんに感謝するとともに、自身に対しては、これから何ができるかを問うていかなばならないと思っている。

(しいなえいぞう・建築家)



地階 ソファに座り光と風と緑のアウタールームを見る(撮影:新建築写真部 小川泰祐)



2階 上部にロフトを頂く朱のブース(撮影:新建築写真部 小川泰祐)



2階 鉄錆の中、ロフトはアルミシルバーの未来空間(撮影:椎名英三)

2011年日本建築学会作品賞を受賞して

梅沢良三

このたび椎名英三氏との共同設計による IRONHOUSE が作品賞を受賞しましたので一筆啓上いたします。IRON は鉄鉄ではありますが、実際は耐候性鋼板（CORTEN 鋼）を用いた住宅でありますから、正確には STEEL です。しかし、鉄錆の空間は遥かなる人類の遺伝子の記憶、すなわち、洞窟の空間に通じるものが感じられ、古びた趣きのある IRON が採用されました。この作品は、工場製作のパネルを用い、現場防水溶接により一体化された、完全なモノコック構造となっており、メンテナンスフリーで 100 年以上の継続使用を見込んでおります。なぜこのような実験住宅を建てたか、それは、日本の住宅の平均築後年数、すなわち寿命が僅か 30 年、欧米の半分以下と

短く、資源、環境、エネルギーの問題を引き起こしているためです。そこで、21 世紀の日本の住宅のあるべき姿を私なりに描いてみました。それが住宅シェルター論ですが、これによると、住宅の外殻は 100 年以上メンテナンスフリーで存続させること。内部の間仕切りは仮設的に行い、ほぼ 10 年ごとに変わる住宅の機能に対応させること。建物は周辺の環境に貢献する造形をもち、無駄のない敷地利用が図られていることなどが謳われております。IRONHOUSE は住宅シェルター論の実践住宅です。日本の多くの社会問題は住宅問題でもあります。廉価で耐久性が高く、メンテ費用がかからない住宅をどのように造るか、受賞を励みに、ライフワークとして研究を続け、少しでもお役にたてれば幸いです。

(うめざわりようぞう・構道家)



①	②	③
④	⑤	⑥

- ①パネルの建方：75mm のデッキプレートを芯材に、両面から 4.5mm の CORTEN 鋼板でサンドイッチしたパネルは工場で作製され、防水溶接で一体化される。内外共仕上げなしの錆の建築となる。初期の錆色は明るい赤黄色。
- ②西北外観：丸 4 年経過した外壁の錆色は赤褐色に深みを増す。6 月の植栽は雨を浴び繁茂する。西面 2 階に葦をシュロ縄で編んだ簾が垂れる。壁面から 20cm 離し、風通しに配慮、抜群の西日対策。西面奥に屋上に通じるサービスポーチがある。
- ③アウタールーム見上げ：サービスポーチからの外部動線は、地下のアウタールームと、外部階段を通じ、屋上庭園まで伸びている。外部階段は厚さ 36mm の片ササラの折紙細工のような階段となっている。
- ④屋上庭園：6 月の屋上庭園。段々畑の修景バラが満開。頂にトップライトが L 字に走る。庭園の奥にベンチが見える。背の高い木は冬に実なる柑橘類。
- ⑤2 階内観：段々畑とトップライトが天井に映る。鉄の表面は内外共自然発錆のまま。職人技が冴える鉄骨製作施工は気仙沼の高橋工業。照明とテーブルのデザインは椎名英三氏、製作は彫刻家尾崎悟氏。
- ⑥地階鋼製建具とガラスの階段：アウタールームとの境の引違い建具も外壁と調和する CORTEN 鋼製。L 字コーナーに柱は無く、開け放つと内外一体のワンルームとなる。陽が差し込み、居住性の高い地下室は総掘り工法により実現。玄関から通じる吹き抜け階段は狭さを克服するためガラスの階段とした。

2011年 関西研修旅行報告



長谷寺本堂

建築史・建築論研究室では、毎年2～3月にかけて関西研修旅行を実施しています。この旅行の魅力は各分野の研究室の先生方や学生が、一緒に建築を見てまわり、実物の建築を前にしてさまざまな視点から建築についてともに考え、語り合うことにあります。そうして建築を実際に目で見て、肌で感じることで多くのことを知ることができます。この研修旅行ではその点に重点を置き、短期間で集中的に古代から近代にかけて、普段公開されていない建築などを見学します。

日程：2011年2月25日（金）～3月1日（火）

参加者：学生36名 引率教員6名

見学先：

2月25日（金）

室生寺（金堂、本堂、五重塔、御影堂）、長谷寺（本堂、etc.）

2月26日（土）

法隆寺（中門、金堂、五重塔、夢殿、講堂、食堂、etc.）、奈良ホテル、東大寺（南大門、大仏殿、鐘楼、二月堂、法華堂）、浄瑠璃寺（本堂、三重塔）

2月27日（日）

聴竹居、待庵、大山崎山荘、駒井家住宅、吉田神社、重森三玲庭園美術館

2月28日（月）

奥谷組現場見学、北野天満宮、茶室修復現場見学、慈照寺（東求堂、観音堂、弄清亭、etc.）、佳水園

3月1日（火）

国立近代美術館、京都会館、平安神宮、旧武徳殿、並河靖之七宝記念館、無鄰菴

今回の旅行では、歴史研究室をはじめ、構造、計画、設計系などの各分野研究室の先生にも参加していただき、さまざまな視点からお話をうかがうことができました。また修復現場見学など通常の旅行では体験できない見学もあり、好評のうちに研修旅行を終えることができました。建築に対する視野を広げるまたとない機会ですので、興味のある方はぜひ、来年参加してみてください。

（幹事：清水 明（M2）・建築史・建築論研究室）

負けても賊軍

安楽駿作（4年）

関西研修旅行はただ負けっぱなしの旅だった。ほぼ全敗である。というのは藤森照信氏いわくの「建築を見る」＝「建築といかに語り尽くし、尽くし落とせるか」それはまさに相撲の一本勝負のようという話から。僕は今回その実戦訓練として望んだわけである。

関西研修旅行の見学先は古建築から近代建築まで名前には知っている建築を訪ねることになる。個々の建築はえりすぐりの有名建築ばかり。ただ僕は建築の前に立ちすくんでしまった。僕はその悠然と建つ建築の前に圧倒される。しかし関西研修旅行は先生や先輩がいる。その中で何気なく出てくる言葉が大きな糸口となって自分にもその建築に語れる（勝たれる）瞬間がある。始めにはただ負け続けたと書いたが、実はただ負け続けたわけではなかったのだ。

例えば奈良・長谷寺でのこと。大規模な本堂を前に自分はその背後が気になる。その本堂は京都の清水寺と同じ懸造なのだが、後ろ側は日本建築のスケールでは見られない壁がそそり立ち、柱は途中で庇に分節されずに一番上の大屋根までぶつかっている。そのまっすぐで力強い柱はジャイアントオーダそのもの。本堂は拝観者が本堂の周囲を回ることで拝観するときの道でもあるが、そこでのそそり立つ壁面に建築を語るという1つの新しい糸口のようなものを見つかることができる。それは一種の妄想であり、喜びである。同じことを日本で最初の建築史家伊東忠太は実践していた。かの有名な法隆寺のインタシスである。その説の真偽は別としても、伊東は法隆寺の前に戦い、一種の妄想を抱いた。

建築を見て語ろうとすることはいずれ建築を変える力にもなるということだと思ふ。古建築だけでなく、現代建築でも「建築を語る」とは必要である。妄想でもさまざまな「語り」ができることは、その建築に魅力があることの証であるからである。「語られる」建築、構造というのはそこにさまざまな「語る」糸口がみえるからこそ魅力的であるのだと思ふ。「語られる」ものをつくるのが建築であり、それを発見する旅であった。



慈照寺東求堂



重森三玲庭園美術館



村野藤吾設計佳水園

関西研修旅行で得たこと

加藤千晶（4年）

今回の関西研修旅行は二回目の参加で、前回と変わる大きな収穫といえば建築を見る視点が増えたこと、そして自身の考えによって建築を見られるようになったことである。前は知識が浅かったこともあり、例えば日本建築に出てくる用語を実際の建築で確認したり、以前読んだ本に書いてあったことを思い出して、著者はこのことを言っていたのか、などと考えながら建築を見ていた。当時としても非常に有意義な研修旅行であったが、今思えば著作物や先生の解説に頼らなければ理解が深められない状態だった。

関西研修旅行では建築史研究室だけでなく、ほかにも多くの先生やOBの方が参加される。先生やOBの方々がどんなふうに建築を観察しているのか見ていると、それぞれ異なった視点から建築を見ていることに気付く。なるほどなと思いながら、こんなふうに建築を見ていけばいいのかわかると、自ずとそれぞれの建築について何かしら発見することができた。とくに建築に対して疑問がたくさん生まれたことは大きい。疑問が生まれるとそれを解決するためにまた違った点から建築を見る。解決することもあれば、また疑問が深まることもある。それがすごく楽しく、これが建築を見るときの一つの醍醐味だと知った。

そしてさらに有意義だったのが、毎晩友人たちと部屋に集まり、夜遅くまで翌日の見学先について予習したことだった。図面と文書から生まれた疑問を、翌日みんなで確認し、実際はこうなっているのかと納得しながら見てまわった。あらかじめ知識を共有することによって、一人だけの疑問で終わらせず、確認し合う作業を通して建築に対する理解を深められたと思っている。

今回の関西研修旅行で衝撃を受けた建築がある。長谷寺本堂がその建物であるが、研修旅行から帰って後々、長谷寺本堂についていろいろ調べてみると、私が長谷寺本堂で発見し予想したことはことごとく裏切られた。確かに自分の視点から建築を見ることができたのは収穫だったが、今度は復習することも大事であることを今痛感している。

関西研修旅行を通して

小林千紘（3年）

研修旅行に参加したことにより建築物への見方が大きく変わりました。以前は建築物の荘厳な雰囲気や綺麗な庭を目で見て、心を奪われるだけでした。しかし、研修旅行中に先生方がどのように建築物を見ているか、どうしてこの建築物が良いと思うかを聞いたことで、構造や配置の意図にも興味をもつようになりました。

京都や奈良が好きだったので、訪れたことのあった場所もいくつかありました。また、授業でも京都や奈良の建築物が多く扱われていたので授業の復習のような気持ちもありました。しかし、実際に訪れてみると自分の能力だと理解できない部分まで説明をしていただきました。

その中で私がとても興味深かったのは屋根の構造です。断面図ではどの部材が構造用か化粧用かは判断できても、実際に建築物を目の前にするとまったく判断ができませんでした。しかし、室生寺の五重塔の垂木は部材の強度を増すために断面積が大きくなっていることや、浄瑠璃寺の三重塔は法隆寺の五重塔とは違い、三つの屋根の大きさがほぼ同じこと、普段入ることのできない奥谷組の社内にあった屋根部材の模型などで説明していただいたことにより、尾垂木と垂木の違いを理解することができました。

四日目に宿泊した佳水園では今まで歴史的な建築物に対して行っていた、観る・感じるだけでなく利用するというとても貴重な体験ができました。佳水園はとても歴史のある建築物であり、すべての部屋が異なるデザインで、アプローチも部屋によって変えられていました。ここまでは他の建築物の所感とあまり変わりませんが、一つの建築物を一日中観るということをしたことがなかった私には日中の部屋や廊下の観え方と、外が暗くなってからの観え方との違いがとても新鮮でした。日中は庭に開けた明るい印象のエントランスが、夜になるとさまざまな装飾を黒いガラスによって強調しているように感じました。

それまで気付かなかった疑問をもち、それをすぐに先生に聞くことができたことで、建築物に対しての見方がわかりました。また、新たな興味をもつことができ、もっと寺院建築について知りたいと思いました。

平成22年度 建築学科就職状況

建築学科就職事務室

はじめに

本稿は平成22年度の建築学科、建築学専攻の就職状況を報告するものであるが、読者の多くはこれから就職活動に望む（望んでいる）学生たちであろうから、本学の就職に関する基礎的な情報から述べよう。私たちの身近で就職支援をしているのは建築学科教室である。ここでは直接もたらされる企業からの求人の整理や就職登録カードの保管、教室推薦状の発行などを行うとともに、卒業後の進路の情報管理を行っている。企業から内定が出たら、速やかに「卒業・修了後の進路届」を提出しなければならない。ひとまわり大きな組織に理工学部就職指導課がある。各種の就職支援関連講座の開催や1年生に配布された「CAREER SUPPORT GUIDE 2011」、3年生に配布予定の「2012 就職の手引き」「公務員を志す諸君へ2012」の作成と業界セミナーの開催など理工学部全体の就職活動支援を行っている。さらに大きな組織として、日本大学学生支援部就職課がある。企業から日本大学に向けての求人情報はすべてここに集められ、NU 就職ナビに掲載される。また、下部の公務員試

験支援センターによって公務員を目指す学生に対しての講座の開催などが行われている。日本大学からは毎年2万人を超える卒業生が巣立っていくが、この2万人を対象にした求人がNU 就職ナビに集約されているので、大いに活用してほしい。なお、企業から内定が出たら、NU 就職ナビにおいて「進路届」を提出しなければならない。付け加えるならば、NU 就職ナビは卒業生に対しても開かれているので、卒業・修了後もサポートを受けられるというメリットがある。そのほかにも建築学科卒業生による桜門建築会や理工学部校友会などOB・OG主催による就職相談会も毎年開催されている。

長引く景気低迷と大震災の影響により就職活動は長期化と、困難を極めている。上記のような何重もの支援を受けてぜひ就職戦線を勝ち抜いてほしい。

NU 就職ナビ https://recruit.nihon-u.ac.jp/nunavi_gakusei/view/gakusei/gsLogin.view
 建築学科求人一覧 <http://inhouse.arch.cst.nihon-u.ac.jp/cgi-bin/cbdb/db.cgi>

概況

就職希望者のうち内定が得られて卒業・修了した者は表-1に示すように72.7%である。昨年度(86.4%)、一昨年度(86.4%)に比して大きく下回っている。内定者数は変わらないものの、卒業・修了生が前年比で10名ほど増え、大学院進学者が20名増えたこともあいまって、割合で見ると内定率は大きく下回った。なお、就職が決まらず卒業・修了した者は、世間でいわれるように学生の希望企業と求人企業のミスマッチも少なからずあると思われる。学生はよくメディアに登場するメジャーな企業を希望する傾向にあるが、実際に人手が不足しているのはどちらかというと、中小規模の企業が多く、このような企業は比較的長期間にわたって求人を行っているにもかかわらず

表-2 月別求人件数

	平成22年度	平成21年度
10月	10	10
11月	29	18
12月	42	36
1月	35	19
2月	22	21
3月	17	9
4月	8	7
5月	10	21
6月	12	26
7月	3	8
8月	0	3
9月	0	0
10月	2	1
11月	3	0
12月	2	0
1月	1	1
2月	1	2
3月	2	0
合計	199	182

表-1 就職状況の概要

注：()内は女子内数

	平成22年度			平成21年度		
	学部	大学院		学部	大学院	
		建築	不動産		建築	不動産
就職希望者数	239(73)	61(21)	8(1)	195(55)	63(18)	12(5)
就職内定者数	170(54)	48(17)	8(1)	166(51)	57(14)	8(2)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	109(29)	9(2)	0	89(20)	14(1)	0
就職・進学者数	279(83)	57(19)	8(1)	255(71)	71(15)	8(2)
求人会社数	199			182		

らず希望者がいないというケースも見られる。さらに、表中では「H. 官公庁・大学、法人」として示されているいわゆる公務員に採用されている者は人数的には横ばいであり、大学院進学者は大きく割合を上げている。

求人時期と応募方法

NU 就職ナビ（平成 19 年度運用開始）とは別に、建築学科が直接依頼を受けた求人数は 199 件であり毎年徐々に増えている。景気低迷が続く中でも企業は「いい学生」がいたら採りたいという。直接求人を受ける企業は日大理工建築のブランドを信じて「いい学生」を探しにきているものと思う。

昨今の傾向では求人および就職活動の時期は早まる一方である。平成 23 年度から業界の申し合わせで「就職情報サイト（〇〇ナビといったもの）」の受付は 12 月から開始、面接試験は 4 月開始となるようであるが、平成 22 年度には 12 月に最多の求人数となっていることから 10 月ぐらいには就職活動は実質的に開始されたといえる。また、内定までには厳選した「いい学生」を採るための何段階にもわたる面接が行われ、これも就職活動の長期化を招いている。

応募は、ほとんどの企業が自社のホームページまたは就職情報サイトからのエントリーを経て、WEB テスト（多くは SPI テスト）という流れになっており、自由応募の形をとるものが圧倒的である。推薦については企業が学内で企業説明を行い、リクルータによる選抜が行われた後に企業での選考が実施されるスタイルが定着し、推薦＝内定ではないが、このような選抜は比較的内定を受けられる可能性が高くなっている。

就職内定者の内訳

大学院進学者を除く内定者の割合は、B-1. 住宅産業が大きく伸び、D. 設計事務所関係が減っている。業種別に昨年度と比較してみると、B-1. 住宅（9.2% → 15.2%）が増加したのに対して、B-2. 不動産（8.0% → 4.5%）と D. 設計事務所・インテリア（14.1% → 9.5%）が大きく減少し、C. 設備（4.6% → 3.9%）と E. 建材・エンジニアリング（3.7% → 2.7%）は微減、そのほかにはあまり変化は見られない。卒業生全体では A. 建設業（25.7%）、B-1. 住宅（23.4%）が多いのは、例年と同様な傾向である。大学院進学が 3.3% 増加したことも、内定者数割合の引き下げに若

干影響しているものと考えられる。

コース別の特徴

コースごとの傾向が顕著に表れているのが、大学院進学者の割合と内定先業種の傾向である。大学院進学者率が高いのは設計・計画コース（60.4%）で例年と同傾向であるが、平成 22 年度は著しく高率である。ついで企画経営コース（37.0%）、環境・構造コース（23.5%）となるが、こちらは例年並といえる。将来、設計を仕事とするためには 5 年制という国際的な資格をにらみ、また国内の求人も大学院修了レベルが求められることも踏まえてのものと考えられる。

内定率に関しては環境・構造コース（81.5%）、企画経営コース（76.3%）、設計・計画コース（51.9%）と逆転する。業種別に見ると、環境・構造コースは A. 建設業（22.7%）をはじめ、設備に至るまで広く高い内定率を示している。設計・計画コースは B-1. 住宅（15.8%）が若干高いといえるが、突出したものはない。企画経営コースは B-1. 住宅（19.6%）、A. 建設業（13.0%）、B-2. 不動産（13.0%）に集中している。

次年度に向けて

平成 23 年度も依然として厳しい

表-3 求人・内定者の内訳

	求人会社数				内定者数								内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	大企業		中企業		小企業		計		
					学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
A 建設業	34	17	10	61	32(5)	12(4)	6	1(1)	5(1)		43(6)	13(5)	16.7%
B-1 住宅	22	7	8	37	30(12)	2(1)	11(8)	1(1)	6(1)	1(1)	47(21)	4(3)	15.2%
B-2 不動産					8(3)	2	4(2)			1(1)		13(6)	2(0)
C 設備	17	10	2	29	5	1	3(2)	1(1)	2(1)	1	10(3)	3(1)	3.9%
D 設計事務所・インテリア	5	13	10	28	6(1)	3	3	7(2)	8(1)	5(2)	17(2)	15(4)	9.5%
E 建材・エンジニアリング	16	5	1	22	1(1)	2(1)	4(3)		2(1)		7(5)	2(1)	2.7%
F コンピュータ・情報	3	2		5	3(1)				2(1)	1(1)	5(2)	1(1)	1.8%
G 製造業・営繕・その他	8	3		11	12(2)	4(2)	4(2)		1		17(4)	4(2)	6.3%
小計	105	57	31	193	97(25)	26(8)	35(17)	10(5)	27(7)	8(4)	159(49)	44(17)	60.4%
H 官公庁・大学				3							6(2)	4(0)	3.0%
法人				3							3(3)	0(0)	0.9%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)											109(29)	9(2)	35.1%
J 自営業											2(0)	0(0)	0.6%
総計				199							279(83)	57(19)	100.0%
											336(102)		

以上の統計は学部、大学院建築学専攻に関するものである。

注：大企業…従業員 500 名以上、中企業…従業員 100 名以上、小企業…99 名以下、()内は女子内数、求人会社数…再募集は除く。

状況が予想される。さらに、3月11日に発生した東日本大震災を受けて、企業の求人・採用活動日程が大幅にずれ込み、求人を取りやめる企業も出ている。各自で情報収集し、十分な企業研究にもとづく対策を立てることを望みたい。また、企業の規模や知名度にこだわらず、自身の

やりたい業種・業態を絞りつつ、企業やその業務内容を広い視野でとらえて、自己の能力の発揮できる企業を選択することを期待する。また、大学院進学についても引き続き奨励しているので、将来をにらんで多くの学生が志望されることを願う。

さらに、学部3年生と大学院1年

生には7月から就職ガイダンスなどの指導が始まる。就職活動が本格化するのは年明けと予測されるが、学内外の就職支援関連講座やOB・OGに直接話が伺える機会は積極的に利用されたい。

(平成22年度就職担当：三橋博巳)

表-4A コース別就職状況〈環境・構造〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	124(35)
就職内定者数	101(27)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	31(6)
就職・進学者数	132(33)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	25(3)	2	3	30(3)	22.7%
B-1 住宅	12(4)	6(4)	4(1)	22(9)	16.7%
B-2 不動産	3(1)	1(1)	1(1)	5(3)	3.8%
C 設備	5	3(2)	2(1)	10(3)	7.6%
D 設計事務所・インテリア	3(1)	2	3	8(1)	6.1%
E 建材・エンジニアリング	1(1)	3(2)	1(1)	5(4)	3.8%
F コンピュータ・情報			1	1(0)	0.8%
G 製造業・営繕・その他	9	2(1)		11(1)	8.3%
小計	58(10)	19(10)	15(4)	92(24)	69.7%
H 官公庁・大学法人				6(2)	4.5%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				31(6)	23.5%
J 自営業				2(0)	1.5%
総計				132(33)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-4B コース別就職状況〈設計・計画〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	77(28)
就職内定者数	40(18)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	61(20)
就職・進学者数	101(38)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	3(1)	2	2(1)	7(2)	6.9%
B-1 住宅	11(5)	4(4)	1	16(9)	15.8%
B-2 不動産	1(1)	1(1)		2(2)	2.0%
C 設備				0(0)	0.0%
D 設計事務所・インテリア	2	1	5(1)	8(1)	7.9%
E 建材・エンジニアリング		1(1)		1(1)	1.0%
F コンピュータ・情報	2(1)		1(1)	3(2)	3.0%
G 製造業・営繕・その他	2(1)		1	3(1)	3.0%
小計	21(9)	9(6)	10(3)	40(18)	39.6%
H 官公庁・大学法人				0(0)	0.0%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				61(20)	60.4%
J 自営業				0(0)	0.0%
総計				101(38)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-4C コース別就職状況〈企画経営〉

就職状況の概要

	学部
就職希望者数	38(10)
就職内定者数	29(9)
大学院進学者数(留学希望・その他含)	17(3)
就職・進学者数	46(12)

求人・内定者の内訳

	内定者数				内定者数割合
	大企業	中企業	小企業	計	
A 建設業	4(1)	2		6(1)	13.0%
B-1 住宅	7(3)	1	1	9(3)	19.6%
B-2 不動産	4(1)	2		6(1)	13.0%
C 設備				0(0)	0.0%
D 設計事務所・インテリア	1			1(0)	2.2%
E 建材・エンジニアリング			1	1(0)	2.2%
F コンピュータ・情報	1			1(0)	2.2%
G 製造業・営繕・その他	1(1)	2(1)		3(2)	6.5%
小計	18(6)	7(1)	2	27(7)	58.7%
H 官公庁・大学法人				0(0)	0.0%
I 進学(大学院・研究生・留学・その他)				17(3)	37.0%
J 自営業				0(0)	0.0%
総計				46(12)	100.0%

以上の統計は学部に関するものである。
注：大企業…従業員500名以上、中企業…従業員100名以上、小企業…99名以下、()内は女子内数。

表-5A 就職先の内訳〈建設〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院			学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
鹿島建設							3(1)	0	3(1)	佐藤工業							1	0	
竹中工務店				1			2(1)	2	2(1)	浅沼組							2	0	
清水建設							1	2(1)	1	ユニオン建設								1	0
大成建設					1(1)		3	3	1(1)	向井建設			1						1
大林組							2(1)	2(1)	1	ナブコシステム							1(1)	1(1)	0
戸田建設	2						2	4	0	佐藤秀							2	2	0
前田建設工業							1	1	0	郡リース							1	1	0
東急建設							2	2	0	ヤマウラ							1	1	0
安藤建設							4	4	0	東レ建設							1	1	0
長谷工コーポレーション							1	1	0	平成建設							1	1	0
フジタ					1(1)		1(1)	1(1)	1(1)	工藤建設								1(1)	0
五洋建設							1	1	0	頸城建工							1	0	1(1)
北野建設							1	1	0	西尾産業								1	0
飛鳥建設							1	1	0	三ノ輪建設							1	1	0
東鉄工業							1	1	0	河端建設							1	1	0
西武建設							2(1)	2(1)	0	イノベーションエージェンツ							1(1)	1(1)	0
総計											2	1	2	3(2)	0	0	39(6)	9(3)	43(6)

表-5B 就職先の内訳 (住宅・不動産)

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
積水ハウス	3(3)	1(1)					2(1)		5(4)	1(1)	ゆとりリフォーム								1(1)	0	1(1)
大和ハウス工業							2	1	2	1	東海ビルメンテナンス								1	1	0
三井ホーム							6(4)		6(4)	0	夢ハウス							1(1)	1(1)	0	
パナホーム							2(1)		2(1)	0	創健ホーム							1(1)	1(1)	0	
野村不動産								1	0	1	オープンハウス							1(1)	1(1)	0	
住友林業ホームテック							3		3	0	タクトホーム							1(1)	1(1)	0	
三菱地所ビルマネジメント			1(1)				1(1)		1(1)	0	富士住建							1	1	0	
三菱地所ホーム									1(1)	0	ウンノハウス							1	1	0	
野村ビルマネジメント							1		1	0	アイジーコンサルティング							1(1)	1(1)	0	
スターツコーポレーション							1	1	1	1	北州							1(1)	1(1)	0	
東日本ハウス							1		1	0	日神不動産							1(1)	1(1)	0	
一条工務店							2		2	0	NREG 東芝不動産							1	1	0	
ポラス							3		3	0	ヤマギシリフォーム							1(1)	1(1)	0	
東急コミュニティー							1(1)		1(1)	0	東京組							1	1	0	
大成サービス							1		1	0	小河原建設							1	1	0	
小田急ビルサービス							1		1	0	シェルター							1	1	0	
アキュラホーム							4(3)		4(3)	0	アイネスト							1	1	0	
野村リビングサポート							1(1)		1(1)	0	マイトレジャー							1(1)	1(1)	0	
アーネストワン							2		2	0	ノーブルホーム							1	1	0	
松屋住宅							1		1	0	ムジ・ネット								1(1)	0	1(1)
広島建設							3(2)		3(2)	0											
総計	3(3)	1(1)										3(3)	1(1)	1(1)	0	0	0	56(23)	5(2)	60(27)	6(3)

表-5C 就職先の内訳 (設備)

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
三菱冷熱工業							1		1	0	TAKEUCHI							1(1)	1(1)	1(1)	1(1)
斎久工業								1	0	1	エルゴテック							1(1)		1(1)	0
三建設備工業							1		1	0	協和工業							1		1	0
太平エンジニアリング							2		2	0	森本浪花音響計画							1(1)		1(1)	0
須賀工業							1		1	0	環境エンジニアリング								1	0	1
第一工業							1		1	0											
総計												0	0	0	0	0	0	10(3)	3(1)	10(3)	3(1)

表-5D 就職先の内訳 (設計事務所・インテリア・コンサルタント)

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
久米設計							1	0	1		長谷川大輔構造計画								1(1)	0	1(1)
山下設計							1	0	1		西塚構造事務所								1	0	1
NTTファシリティーズ							1	0	1		オリジナル設計			1						1	0
安井建築設計事務所			1					0	1		ピー・ディー・システム							1		1	0
桂設計								0	1		建文								1	0	1
梓設計								1	0	1	ACA 設計								1	0	1
伊藤喜三郎建築研究所							1(1)	0	1(1)		織本構造設計								1	1	0
乃村工藝社							1	1	1	1	イクス・アーク都市設計								1	1	0
三井デザインテック							1		1	0	翔設計								1	1	0
アール・アイ・エー								1	0	1	辻垣建築設計事務所								1(1)	1(1)	0
博展							1(1)	0	1(1)		小川博央建築都市設計事務所								1	1	0
ファースト・ファシリティーズ							2(1)		2(1)	0	エ・エス・シー・コーポレーション			1						1	0
ニトリ							1		1	0	ジャスト・プラン								1	1	0
イオンモール							1		1	0	アルキノバ								1	1	0
i2S2							1(1)	0	1(1)		夢真ホールディングス								1	1	0
総計												0	0	2	2	0	0	15(2)	13(4)	17(2)	15(4)

表-5E 就職先の内訳〈建材・エンジニアリング〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
YKK AP							1(1)		1(1)	0	アイ・テック								1(1)		1(1)	0
JFEエンジニアリング								1	0	1	アドヴァン								1(1)		1(1)	0
大建工業				1(1)					0	1(1)	前川林業								1		1	0
日東コンクリート技術事務所									1(1)	0	アジアマテリアルテクノロジー								1(1)		1(1)	0
大和鋼管工業								1		0	総計	0	0	0	1(1)	0	0	0	7(5)	1	7(5)	2(1)

表-5F 就職先の内訳〈コンピュータ・情報〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
エムティーアイ							2(1)		2(1)	0	デジミホ									1(1)	0	1(1)
構造ソフト							1		1	0	大建情報システム								1(1)		1(1)	0
都筑電気							1		1	0	総計	0	0	0	0	0	0	0	5(2)	1(1)	5(2)	1(1)

表-5G 就職先の内訳〈製造業・営繕・その他〉

注：(株)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
東日本旅客鉄道							3(1)		3(1)	0	ジャムコ								1(1)		1(1)	0
東海旅客鉄道								1	0	1	エンチャー								1		1	0
三菱電機								1(1)	0	1(1)	ケーヨー								1		1	0
東京電力								1	0	1	三経ホテル								1		1	0
電通								1(1)	0	1(1)	ホンダ自動車販売								1(1)		1(1)	0
関電工							1		1	0	大興物産								1(1)		1(1)	0
ブリヂストンスポーツ							1		1	0	内山鑑定事務所								1		1	0
東京センチュリーリース							1		1	0	土井製作所								1		1	0
安田屋							1		1	0	揚羽								1		1	0
ダイナム							1		1	0	総計	0	0	0	0	0	0	0	17(4)	4(2)	17(4)	4(2)

表-5H 就職先の内訳〈官公庁・法人〉

注：(財)は省略 ()内は女子内数

会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		会社名	教室推薦		研究室推薦		縁故推薦		自由応募		計		
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
国土交通省関東地方整備局							1	1	0	1	小田原市役所								1		1	0
東京消防庁							1		1	0	日本大学職員			1							1	0
茨城県庁								1	0	1	日本大学理工学部建築学科助手				1							0
足立区役所								1	0	1	中央労働金庫								1(1)		1(1)	0
さいたま市役所								1(1)		0	東郷神社								1(1)		1(1)	0
船橋市役所								1(1)		0	東京二十三区清掃一部事務組合								1(1)		1(1)	0
八千代市役所								1		0	総計	0	0	1	1	0	0	0	8(5)	3	9(5)	4

表-5I 就職先の内訳〈進学〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
日本大学大学院	83(24)	1	84(24)
名古屋工業大学大学院	1		1
東洋美術専門学校	1		1
東京法律専門学校	1		1
その他	23(5)	7(2)	30(7)
総計	109(29)	8(2)	117(31)

表-5J 就職先の内訳〈自営業〉

注：()内は女子内数

	学部	大学院	計
設計事務所・インテリア・コンサルタント	2		2
総計	2	0	2

表-6 企業内定の応募方法

	学部	大学院	計	比率
教室推薦	5	2	7	3.4
研究室推薦	5	6	11	5.4
縁故推薦	0	0	0	0.0
自由応募	149	36	185	91.1
総計	159	44	203	100.0

注：官公庁、法人、大学院進学、自営業を除く。

まちと駅をつなぐ空間

熊本駅西口駅前広場

佐藤光彦



コンペ時のパース

3年前の「駿建」で、コンペの最優秀賞受賞を報告した「熊本駅西口駅前広場」が、九州新幹線の全線開通と同時に竣工しました。

熊本駅の西側は住宅地で、以前は出口もなかったのですが、新幹線の新駅建設に伴う再開発で区画整理が行われ、駅前広場の公開コンペが行われたのです。

コンペ時から完成するまで、私たちの一貫したコンセプトは、駅とまちを緩やかにつなぐ「半屋外の公園」のような空間として、駅前広場をデザインすることでした。新幹線の駅が在来線に併設される場合、すでに駅前として発展している側には用地を確保しにくいので、そのウラ側につくられることが多くなります。熊本は、その極端なケースでしょう。新しく巨大な駅が住宅地のただ中に出現するのです。この極端なスケールと機能のギャップを緩やかに接続するような新たな都市空間をつくりたいと思いました。

次に考えたのは、駅前広場特有の混乱した風景を整理することです。一般的な駅前広場は、中央にはロータリーがあり、バスやタクシーが行き交い、その周囲を商業ビルなどが取り囲み、狭い歩道部分には誘導サインや時計などが設置されています。他にも街灯やバスシェルター、ガードレール、時刻表、ベンチなどさまざまなモノがあります。それらが、警察、鉄道会社、民間企業、個人、行政機関（の諸部署）などによってバラバラに計画されている結果、ほとんどの駅前広場が雑然とした風景となっ

ているのです。

そこで、私たちは車道と歩道の境にたくさんの穴の空いたスクリーンを立て、植栽を計画し、動線上にルーフを設けて、半分囲われた公園のような、人々が落ち着いて滞在し、行き交うことができるスペースをつくり、スクリーンにはサインや時計、照明などを設置しました。つまり、駅前広場に必要なすべての機能、要素をスクリーンとルーフに還元、集約することで、混乱した風景を再構成するとともに、駅と街を緩やかに連続させるような新たな都市空間をつくり出そうとしたのです。植栽計画には山崎先生、構造設計にはOBの小西泰孝さんにご協力いただきました。

駅前広場という、不特定多数が利用する施設への前例のない試みだったので心配もありましたが、開業後、親水施設で楽しそうに遊ぶ子供たちや、ベンチで落ち着いておしゃべりをしている人々を目にすると、これまでにない駅前公共空間ができたのではないかと思い、胸をなで下ろしています。

東口には西沢立衛さん設計の広場（暫定形）もできました。他にも熊本には、アートポリスプロジェクトを中心に、さまざまな建築作品があります。夏休みなどを利用して、ぜひ足を運んでみてください。

（さとうみつひこ・教授）

※図面など詳細については、「新建築 5月号」「GA JAPAN 110号」「日経アーキテクチュア 5-10号」をご覧ください。



(左) 駅前広場全景
(右) 駅出入口付近



平成23年度 短期大学部建設学科 オリエンテーション報告

1年クラス担任

4月に迎え入れた新入生84名と教員12名が参加して、5月19日、短大建設学科のオリエンテーションが行われた。今年は「現代建築の新たな潮流を訪ねて」をテーマに、横浜の大栈橋フェリーターミナル、赤レンガ倉庫、そして厚木にある神奈川工科大学 KAIT 工房の三作品を見学した。授業が始まって1ヵ月あまり、ほとんどの1年生が建物の見学など初めての経験だったに違いない。見学に際しては、「建設学スタディスキルズ」の授業のなかで事前学習が行われ、学生たちは自ら作成した「マイ・ガイドブック」を持参した。また、「ベーシック建築デザイン」の授業の一環として、手のひらにのる小サイズのスケッチブックが配布され、見学建物のスケッチ課題が出された。なんとなく建物を見学するのではなく、目と心のアンテナをより先鋭にして建築と向かい合ってほしい。建物を見るとき作法のようなものが、こうした課題を通じて伝えられれば、と意図したものである。入学したての1年生にはまだ少し早いかもしれないが、その意義を事前に説明した。

幸い天候にも恵まれ、見学には最適の一日だった。2台のバスに分乗して駿河台校舎を出発。初めに訪れた大栈橋フェリーターミナルは国際コンペで選ばれたスペインの建築家の案をもとにつくられ、CAD技術を駆使した新しいタイプの建築の先駆けとなった建物だ。うねるような床面をもつ屋上庭園に出ると、横浜港の様子が一望に見渡せ気持ちよく、皆思い思いの場所に腰を下ろしてスケッチブックに鉛筆を走らせていた。向かいにある赤レンガ倉庫は、明治時代につくられた建物をリノベーションしたもので、歴史的建造物を現代的な機能に変換して活用した事例だ。東京・丸の内界隈などで今、明治時代の建築の復元が相次いでいるが（東京駅、三菱一号館美術館など）、そうした保存・再生の技術は今後ますますニーズを増していくだろう。求められているのは新しい建築だけでは決していない、ということを感じ取ってもらえたのではないと思う。

午後は横浜を離れ、厚木の神奈川工科大学を目指した。KAIT 工房はキャンパス内にある小さな施設だが、若手建築家のデビュー作で日本建築学会作品賞を受賞した佳



赤レンガ倉庫横、大栈橋フェリーターミナルを遠くに見ながら記念撮影

品だ。各種の工作機械が置かれた工房で、説明によると大学の授業とは連携を取らず、学生や地域の人たちに開かれた運営を主眼にしているとのこと興味深かった。「森」にたとえられたその空間はみずみずしい感性にあふれていたが、夏季の室温上昇など問題もあるようで、学生の間からは疑問の声も上がっていた。

昼食は横浜中華街でちょっと辛めの四川料理を味わった。食後のひととき、「ベーシック建築デザイン」を担当されている4人の非常勤講師の先生（遠藤誠先生、光嶋裕介先生、荘司和樹先生、高安重一先生）から「建築との出会い」をテーマにミニレクチャーが行われた。旅と建築、師との出会い、学生時代に何をすべきか、建築を学び始めたばかりの新入生にとっていずれも新鮮な話題で、皆真剣な眼差しで各先生のお話に耳を傾けていたのが印象的だった。

ある建築史家は建築見学を「四つ相撲」にたとえた。空間のなかに身を置き、その建築とがっばり四つに組んで、勝つか負けるか。空間から受ける感覚や印象はなかなか言葉にしづらく、またはかなく消えやすい。それをしっかり自分の言葉にできたら勝ち、できなかつたら負け。建築と相撲を取る力はまだまだこれからだが、このオリエンテーションを機会に建築空間を体験することの面白さ、不思議さを感じ取れるようになってほしい。ひとつでも多くのすぐれた建築を見ることで、これから始まる皆の学生生活が豊かに彩られていくことを願っています。（1年クラス担任：田所辰之助・准教授）



大栈橋フェリーターミナルの屋上庭園でスケッチにはげむ



神奈川工科大学 KAIT 工房、スタッフの説明を聞きながら

新任非常勤講師紹介

建築学科

井手孝太郎 先生 (建築設計Ⅱ, Ⅲ)



SHELL



略歴

1989年 武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
1989～93年 横河設計工房
1994年 アールテクニク一級建築士事務所設立

大学を卒業し20年たった時、SHELLという建物を設計しました。見に来た友人の一言で、あらためて学生時代に追い求めていた形態の延長であることに気付きました。実務の中でさまざまな条件から忘れていたものが、実は少しずつ成長していたのです。人の感覚はそう変わるものでもなく、また多くの部分が若い時期に養われるものと再認識しました。学生時代に考え感じたことを社会に出てすぐに実現できることは少ないと思いますが、確実に個人の感覚の基礎になっていますので、この短い時間を無駄にせず、全力で駆け抜けてもらいたいと願います。必ず大きな財産を得たと実感する時が来るはずで
(いでこうたろう)

建築学科

大野博史 先生 (デザイン基礎, 建築設計Ⅰ, デザインワーク ショップⅠ)



CH/air



略歴

1997年 日本大学理工学部建築学科卒業
2000年 同大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(若色研究室)
2000～04年 池田昌弘建築研究所
2005年 オーノJAPAN設立

卒業してから約10年たちますが、学生時代の記憶や思い出が色あせることはありません。友人たちとの会話や講評会で言われた一言。過ごした学生生活には凝縮された時間や経験が詰まっています。皆さんは学生という立場です。義務教育から続いてきた学生という立場の最後が大学生です。ここで経験したことを糧として社会にでるわけですが、建築を考えるということは単に間取りや空間を考えるだけではなく、社会や文化、環境を考えることにつながります。充実した学生生活を送るためにも真摯に建築に向き合い、興味をもって授業に参加してください。皆さんからののはつらつとした提案を楽しみにしています。
(おおのひろふみ)

建築学科

北岡伸一 先生 (建築設計Ⅰ, Ⅳ)



略歴

1996年 京都大学工学部建築学科卒業
1998年 同大学院工学研究科修士課程修了
1998～2009年 山本理顕設計工場
2011年～ Kitaoka Architects設立

学生時代の設計課題はそのひとつひとつがとても貴重なものです。私自身、一生懸命に取り組んだ設計課題は、今でも忘れることのできない貴重な財産となっています。課題の最終成果物が単なる提出物ではなく、自分の気持ちやアイデアの詰まった「作品」となっているからこそだと思います。学生の皆さんには、それぞれの課題に対して自分の考えを強くもち、納得するまでとことんやって「作品」をつくってほしいと思います。皆さんと話し合う中で、新しいことや面白いことを考えていければと思っています。
(きたおかしんいち)

建築学科

酒井 章 先生

(建築構造計画演習Ⅱ)

略歴

1976年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻修士課程修了
(斎藤公男研究室)

1976年～ 東京建築研究所

1987年～ 熊谷組本社

2003年～ 酒井建築工学研究室設立



本年度後期から大学院において講義をさせていただくことになりました。私は日本大学大学院(修士課程)で学び、東京建築研究所で建築構造設計、熊谷組で耐震構造の研究・開発に従事して学位を取得し、その後、建築構造設計事務所を設立して現在に至っています。講義では、皆さんが学部で学んだ応用力学や構造力学をいかに構造設計に応用するかを教えたいと考えています。また、耐震設計は動的な考え方を踏まえることが重要ですが、とくに私の設計実績が多い免震構造設計に基づいて行いたいと思います。よろしくお願ひします。(さかいあきら)

建築学科

佐藤 文 先生

(建築設計Ⅲ, Ⅳ)

軽井沢・
追分の家



略歴

1984年 日本大学工学部建築学科卒業(近江研究室)

1984～85年 早川邦彦建築研究室

1985～90年 芦原建築設計研究所

1990年 K+Sアーキテツツ設立



設計事務所を主宰して、非常勤講師として2度目となります。最初に大学に来てからは7年程たちました。その間、ITバブルやリーマンショック、3・11の震災など、私たちを取り巻く環境は驚くほど大きく変化してきました。その時々、社会的環境に敏感に反応する学生たちを見ていると、不安定な状況下で自分の進む道を見定めていかなければならぬことの大変さを感じます。その一方で私たちが携わっている建築は、どんなに環境が変化しても一定の期間存在し続けるという性格上、時代の流れを超越したまなざしも同時にもってほしいなと思います。(さとうあや)

建築学科

鍋島千恵 先生

(デザイン基礎, 建築設計Ⅲ)

廊の家



略歴

1998年 日本大学生産工学部建築工学科卒業
(居住空間デザインコース)

1998～2006年 手塚建築研究所

2005年 TNA一級建築士事務所設立



設計行為とは、建築はもちろん、建築以外のことも多く知らなければなりません。例えば、植物の植生を知ること。人に伝えるためのポスターの魅力を知ること。スポーツで自分のポジションを知ること。美味しい食べ物を知ること。心地の良い場所、素敵な街を知ること。すべてに共通することは、「なぜ」を知ること。その答えをつい、見過ごしてしまうのです。生活のちょっとした「なぜ」に注目することは、とても奥深く、とても楽しいことだと思ひます。(なべしまちえ)

建築学科

野島 秀仁 先生

(建築設計Ⅰ, Ⅱ)

軽井沢大賀ホール



略歴

1993年 日本大学大学院理工学研究科建築学専攻博士前期課程修了(若色研究室)

1993年 KAJIMA DESIGN(鹿島建築設計本部)

現在 同建築設計本部 チーフアーキテクト



「建築をつくる」ことを考えるとき、常にそこで建築を使う人々がどのように感じ、住まい、体験し、眺め、そして伝えていくかを考えなければなりません。一方でどんなにすばらしい建物でも、人が建築以外の要素に気をとられたら、建築はまったく見えてきません。それでも人々が器として建築をとらえる脳を刺激する何かを追い求めていくことが大切だと思ひます。建築家はアリの視点と鳥の視点を自由に行き来しながら図面を描き、それをさまざまな人の手によって、実際の建物につくりあげていけるすばらしい仕事です。ぜひ皆さんとこの楽しい経験を一緒に味わいたいと思ひます。(のじまひでひと)

建築学科

吉田明弘 先生

(デザイン基礎, 建築設計 I)



YKK 健康管理
センター



略歴

1990年	日本大学工学部建築学科卒業(清水公夫研究室)
1990年～	アブル総合計画事務所
2004年～	アブル総合計画事務所 取締役副所長
2005年	アブルデザインワークショップ設立

建築は総合芸術であるとよくいわれます。私たち建築家の仕事は建築単体のみならず、建築を取り巻く都市環境デザインから、インテリアやプロダクトなどの細部に至るまでその守備範囲は大変広いものです。私自身これまで通常の建築物以外に岐阜市鷺飼い大橋などの橋梁デザインから北九州門司の景観整備など土木の仕事や地下鉄大江戸線の駅舎インテリアデザインや特注照明器具のデザインなど幅広い活動をしてまいりました。そうした経験をお話することで、学生の皆さんが将来を考える上で少しでも多くの道筋を与えることができればと思っています。(よしだあきひろ)

建築学科

若松 均 先生

(建築設計 II, III)



Hi-ROOMS明大前A
/線路際の長屋



略歴

1985年	東京工業大学工学部建築学科卒業
1988～98年	DESK5設計共同主宰
1998年	若松均建築設計事務所設立

ちょうど皆さんの設計課題と同じ「集合住宅」と「住宅」を、これまで多く設計してきました。今までの経験が少しでも伝えられればと思います。建築の設計をする上では、どんな小さな経験や知識も役に立たないことはないでしょう。今はネットや雑誌など情報に溢れています。知識を得るのはもちろん大切ですが、若い皆さんが、自分の体験や思いから、表現したいと感じるものを率直に課題にぶつけてください。それがうまく言葉にできて、そして、適切に表現できている時、説得力のある提案になるでしょう。楽しみに、かつ期待しています！(わかまつひとし)

短大建設学科

遠藤 誠 先生

(ベーシック建築
デザイン,
建築デザイン I)



鎌倉 T 邸



略歴

1993年	日本大学大学院理工学研究科博士前期課程修了(近江研究所)
1993～2008年	坂倉建築研究所
2009年～	遠藤誠建築設計事務所

私が大学1年生になり、日大船橋校舎に通い出した時から約四半世紀、再びこの地に足を踏み入れることになりました。当時を思い返せば、夢抱いていた楽しいキャンパスライフはどこへやら、宿題や設計製図に追われる日々で「建築学科って厳しい」と思ったことを覚えています。でもある瞬間、建築に対するスイッチが入ってからは世界が変わって見えました。デザインや空間を操作する魅力や奥深さに引き込まれ、とても充実した日々……。だから非常勤講師となった今、学生の皆さんのスイッチを探して、できればそのボタンを押してあげられればと思っています。(えんどうまこと)

短大建設学科

光嶋裕介 先生

(ベーシック建築
デザイン,
建築デザイン I)



凱風館 (神戸)



略歴

2002年	早稲田大学理工学部建築学科卒業
2004年	同大学院建築学専攻修士課程修了
2004～08年	ザウアブルッフ・ハットン・アーキテクツ(ベルリン)
2008年	光嶋裕介建築設計事務所設立

建築家という職業は幅をもっています。「建築」ということが社会に与える影響が大きく、とてもたくさんの人と一緒に仕事をするからです。そのためには建築を知り、それを伝えることができる技術を身につけないといけません。教科書がない勉強です。方法はたくさんあります。例えば「旅」に出ることです。実際に空間を体験し、建築の力を感じてほしい。好きな建築を見つけること。そこから建築と自然のかかわり方、美しい都市に対するあり方など、想像力を広げてください。きっと学ぶべきことは無数に見つかるはず。楽しみながら自分の引き出しを増やし、多様な価値観を身につけてもらいたい。(こうしまゆうすけ)



九十九里の家



略歴

- 1995年 日本大学短期大学部建設学科卒業(小石川研究室)
- 1997年 日本大学理工学部建築学科卒業(若色研究室)
- 1997年 アーキノーバ建築研究所
- 2006年 イエサブ ユナイテッド一級建築士事務所設立

この10年、建築をとりまく環境や社会ニーズが劇的に変革しました。今回の東日本大震災の影響で、そのスピードに拍車がかかることでしょう。その一方で、建築の在り方も「変えるべきもの」と「変えてはならないもの」とが曖昧に混在し始め、われわれ実務者を大きく混乱させています。そういった現象は、学生たちにおいても同様に見られます。しかしながら、そのような状況下にあるからこそ、建築という職能の素晴らしさや面白さ、そして、職能者としての誇りを学生たちとともに模索し続けていきたいと思います。次世代の担い手は、われわれ自身にほかならないのですから。(しょうじかずき)

■小石川正男短大教授、保坂裕梨短大助手、高田康史短大副手の「七間座に集うまちと市民が共に成長する文化づくり」が、「第13回まちの活性化・都市デザイン競技 国土交通大臣賞」(主催：まちづくり月間実行委員会、(財)都市づくりパブリックデザインセンター)を受賞した。静岡市葵区七間町の七ぶらシネマ通り地区における「変わりゆく時代に対応する中心市街地の新たな機能づくり」をテーマに41点の中から最優秀賞に選ばれた。

■島矢愛子さん(大川研 M1)、田部直美さん(今村研 M1)、渋谷舞さん(佐藤光彦研 M1)、加藤悠氏、今野未奈美氏の「こども・トラス△」が、「第1回子どものまち・いえワークショップ提案コンペ 最優秀賞」(主催：日本建築学



「こども・トラス△」

教室ぶろむなード

会子ども教育事業委員会)を受賞した。子どもたちに楽しみながら学んでもらうワークショップ企画への提案が求められ、最優秀案は「親と子の都市と建築講座」として10月に実施される予定。アルミパイプに紐を通すことで形づくられる構造体に、両国の特産品である紙やビニールを貼り付け、つくること・空間を体験すること・素材の違いを学ぶことができる。実施後に詳細を紹介する予定。

■藏田佳祐氏(中田研'11年卒業)の卒業論文「コンクリート型枠用合板の転用がコンクリート表面の仕上がり状態に及ぼす影響」が、「2011年日本建築仕上学会 奨励賞」(主催：日本建築仕上学会)を受賞した。

■池上晃司君(佐藤光彦研 M2)、小笠原隼君、丹下幸太君(同4年)、土川菜々子さん(同 M2)、山田明加さん(同 M1)の「水面の森」が、「北海道ガーデンショー コンペティション 奨励賞」(主催：北海道ガーデンショー事務局)を受賞した。実際の作品制作を前提とし

て、森の小庭園「恋の庭 Garden for Love」への提案が求められ、71作品の中から選ばれた。



「水面の森」

■渡辺大助氏、長谷川恵美氏、中谷純氏(ミサワホーム)、羽入敏樹短大准教授、星和磨短大助手連名の原著論文「吸音による住空間の音環境快適化に関する基礎的研究」が日本建築学会環境系論文集 No.662(2011年4月号)に掲載された。

■佐藤光彦教授の作品「熊本駅西口駅前広場」が新建築2011年5月号、GA JAPAN 110、日経アーキテクチュア2011年5月10日号に掲載された。植栽計画を山崎誠子助教が担当。作品の詳細はP.15に掲載。

■山崎誠子助教他が執筆した「最高の植栽をデザインする方法」(建築知識編、エクスマレッジ)が刊行された。

駿建目次	東日本大震災報告	2	まちと駅をつなぐ空間	15
2011年7月号 Vol.39 No.2 通巻164号	IRONHOUSE		平成23年度 短期大学部建設学科オリエンテーション報告	16
表紙「IRONHOUSE」	2011年 日本建築学会賞(作品)受賞	5	新任非常勤講師紹介	17
設計：椎名英三+梅沢良三	2011年 関西研修旅行報告	8	教室ぶろむなード	20
撮影：新建築写真部 小川泰祐	平成22年度 建築学科就職状況	10		